

A R F 災害救援に関する会期間会合 歓迎レセプション

【2月12日 於：三田共用会議所】

中根大臣政務官 冒頭挨拶

外務大臣政務官の中根一幸です、本日は、A R F 災害救援に関する会期間会合に御出席の皆様を心から歓迎します。また、共同議長の中国とミャンマーの代表の御協力に感謝申し上げます。

A R F は、今年で22年目。この会合の開催も14回目を迎えました。その間、2004年のスマトラ沖地震、2008年の四川大地震、2011年の東日本大震災、2013年のフィリピン台風ハイエンなど、アジアは多くの大規模自然災害に見舞われました。

そうした中で、我々は災害救援の重要性を認識し、その経験と知識の共有や協力関係の深化を進めてきました。「A R F 災害救援 I S M」は、そのような我々の努力に大きく貢献し、地域の安全保障環境を堅固なものとするための信頼醸成措置としても、重要な役割を果たしてきました。

本日の会合でも、参加者の皆様は様々なブリーフィングや積極的な議論を行ったと承知しており、主催国としてこれほど嬉しいことはありません。

日本は、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」の立場から、地域と世界の平和と安定の確保に、これまで以上に積極的に寄与していきます。災害救援は、「積極的平和主義」の実践において、最も重要な取組の一つです。

本日の会合の冒頭で紹介させていただいたとおり、3月に仙台で「第3回国連防災世界会議（Third UN World Conference of Disaster Risk reduction）」が開催されます。この会議では、国際的な防災取組指針である「兵庫行動枠組（Hyogo Framework for Action）」の後継枠組が採択されます。A R F 各国からも、首脳級の参加を得たく、御協力をお願いいたします。

日本には、「備えあれば患えなし」という言葉があります。普段から準備がしてあれば、万一の事態が起きても心配しないで済む、という意味です。今回のセミナーにおける真剣な議論、またそこから生まれる信頼を通じ、災害救援分野における我々の協力関係が更に強化されることを願います。

最後に、「備えあれば患えなし」という準備と体制が確固たるものとなることを期待して皆さんと乾杯したいと思います。

乾杯！